

学校施設-028

施設名 — 北海道手稲養護学校

所在地 — 札幌市手稲区稲穂3条7丁目6-1

構造・規模 — RC造 2階建 2,404㎡

完成年月日 — 平成19年3月20日

建築実施設計 — (株)北海道日建設計

設備実施設計 — (株)大洋建築設備研究所

土木実施設計 — (株)拓殖設計





【設計コンセプト】

○ 医療と教育の共存

北海道手稲養護学校は、幼稚園から高校までの肢体不自由児を対象とする養護学校です。

本施設は、養護学校に通う子供たちが生活する小児療育センターと肢体不自由児の医療、教育支援の場が一体的に整備されたため、日常生活空間としての設計配慮が必要でした。このため、設計、施工の段階で、車椅子を使用する子供たちに参加してもらい、利用者の視点に立った生活しやすい施設を実現することができました。

○ 屋外とのつながり

通学路となる渡り廊下からの導入部分には3層にまたがる「光のみち」を設け、主動線空間として縦、水平移動の結節点としました。

校舎は中庭を挟んで3棟を平行に配置し、すべて「光のみち」からアプローチできるわかりやすい構成としています。

「光のみち」は周囲の緑豊かな風景と一体感を得られる快適な屋内空間としており、あまり屋外に出られない子供たちも室内にいながら自然の変化を感じられる空間となります。

一方、小学部、幼稚部の教室は1階に配置し、気軽に中庭に出て自然を体感できる学習環境を実現しました。

学校施設-029

施設名 - 北海道美唄養護学校

所在地 - 美唄市東7条南3丁目1-1

構造・規模 - RC造 平屋建 5,131㎡

完成年月日 - 平成17年1月5日

建築実施設計 - 日本都市設計(株)

設備実施設計 - (株)ピーゴーイング

土木実施設計 - (株)ホクスイ設計コンサル



【設計コンセプト】

当養護学校は知的障害者及び肢体不自由の障害をもった小・中・高等部の子供たちが、それぞれ教育活動を行っている施設です。改築の設計においては、基本理念である「障害のある子供たちが楽しく活動できる施設の整備」を重視して、次の3つのキーワードを基本コンセプトとして設計上配慮しました。

○ 使いやすさ

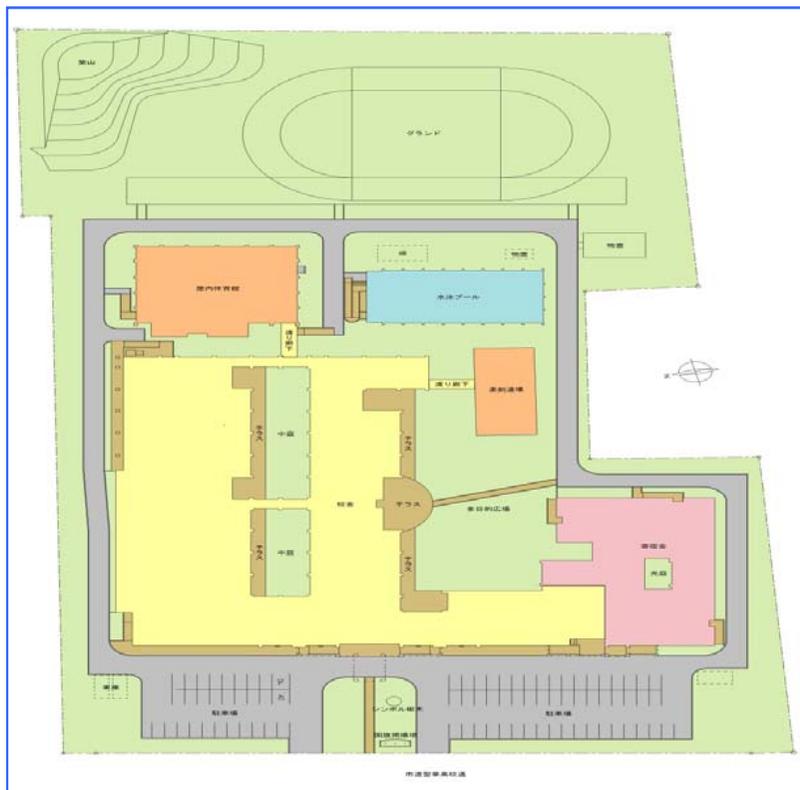
寄宿舎と校舎は食堂で接続され、距離を感じさせない計画となっており、ゆとりのスペースや年齢に応じた各部ディテールの検討、障害を意識させないユニバーサルデザイン、将来変更可能な間仕切りの採用しています。

○ わかりやすさ

平屋建てであり、各学部ゾーンに構成された単純な動線、明快な平面計画、色彩による空間構成、単純な避難計画に配慮し安全性を高めた建築計画としています。

○ 安全と安心

各クラスルームにテラスが設置され、中庭や屋外広場と繋がっており、安心して活動できる外部空間があるほか、床壁の仕上げや床段差の除去、2方向避難の確保、耐震性の向上などの安全に活動できるよう配慮しています。



学校施設-030

施設名 — 北海道八雲養護学校

所在地 — 二海郡八雲町宮園町128

構造・規模 — RC造 2階建 3,854㎡

完成年月日 — 平成17年1月18日

建築実施設計 — (株)安藤敏郎建築設計事務所

設備実施設計 — (株)大洋建築設備研究所

土木実施設計 — (株)シン技術コンサル

【設計コンセプト】

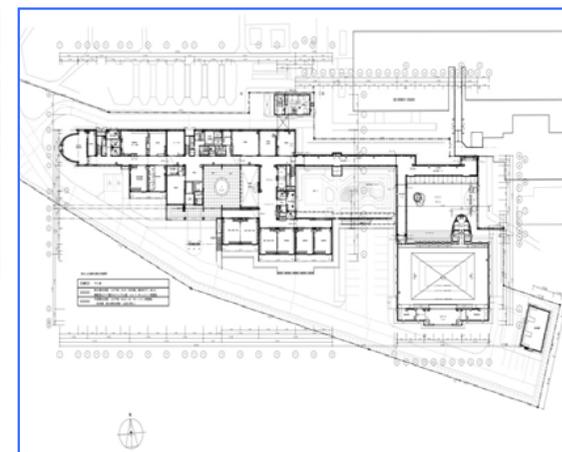
この施設は、隣接する国立八雲病院に入院して治療や訓練を受ける筋ジストロフィーや重度心身障害児・生徒を対象とした養護学校です。設計は、学校に通う子ども達の日常生活の様子や難病に立ち向かう姿勢を誠実に理解し、それらに的確に対応する努力が最も重要であると考えるとともに、単なる学校ではなく、医療と教育に支えられた「生活の場」であるということ、**「ここで生活する子ども達の視点」**で捉え設計しています。

○ 地域性への配慮

八雲町の気候風土に十分配慮した建築の形態、材料、空調・換気方式を検討するほか、隣接する航空自衛隊八雲基地を考慮した防音対策に十分配慮した開口部を設計します。

○ 子ども達のストレスに配慮

工事期間中は、入院加療しながら学習を続ける子ども達への心理的影響を最小限に抑えられるプログラムを立案し、物理的なバリアーはもちろんのこと、難病を抱える繊細な子ども達の五感を刺激する感覚的なバリアーについても、それらが精神的なストレスにならないように十分配慮します。



学校施設-031

施設名 — 北海道登別明日中等教育学校寄宿舎

所在地 — 登別市片倉町5丁目18-2

構造・規模 — RC造 2階建 972.81㎡

完成年月日 — 平成18年8月25日

建築実施設計 — (株) 安藤敏郎建築設計事務所

設備実施設計 — (株) ビーゴイング

土木実施設計 — (株) ホクスイ設計コンサル

【設計コンセプト】

○ コミュニケーションへの工夫

この施設は、道内初の中高一貫教育の公立校である、北海道登別明日中等教育学校に通う生徒のための寄宿舎です。

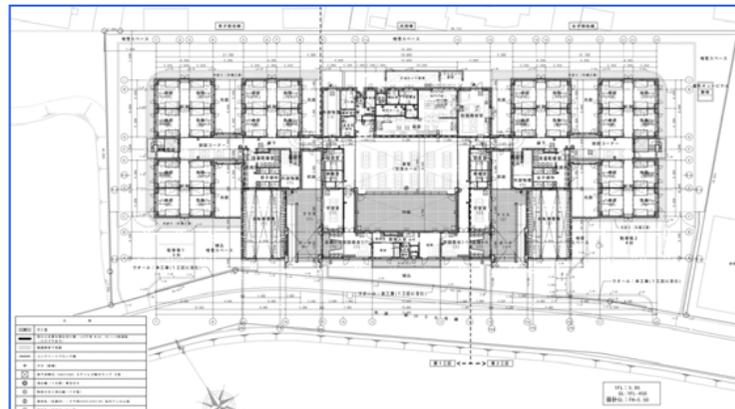
寄宿舎で生活する生徒たちのスムーズなコミュニケーションを手助けするために、舎室ユニットを採用しています。

個室化された部屋の集合体である舎室ユニット、舎室ユニットの集合体である舎室ゾーン、舎室ゾーンが集まり寄宿舎を構成する平面計画で、プライベートからパブリックに至るコミュニケーションの段階性をかたちにしています。

○ 景観・地域への配慮

配置計画では、外周に管理用道路を巡らせ隣接する住宅とほどよい離れを確保し、高さ・大きさを周辺のスケールに合わせ全体を分節することで、周辺環境との調和に配慮しています。

また、外断熱の採用で、省エネで耐久性のあるサステナブルな建築を目指すと共に、道産材を積極的に活用し、地元のローテクな技術を生かして造る工夫を随所に盛り込んでいます。



学校施設-032

施設名 — 北海道芦別高等学校産業教育施設

所在地 — 芦別市本町40番地13

構造・規模 — RC造 2階建 1,380㎡

完成年月日 — 平成17年3月25日

建築実施設計 — (株)岩見田・設計

設備実施設計 — (株)北洋設備設計事務所

土木実施設計 — (株)さがら設計事務所

【設計コンセプト】

実社会への業務に近い施設づくりに心掛けました。

○平面計画

将来の学習内容の変化に対応できる空間づくりとしました。



学校施設-033

施設名 — 北海道穂別高等学校柔剣道場

所在地 — 勇払郡むかわ町穂別127-3

構造・規模 — 木造 平屋建 310㎡

完成年月日 — 平成17年3月26日

建築実施設計 — (株)田辺構造設計

【設計コンセプト】

建物は標準設計です。

基礎をコスト比較によりラップル基礎を採用しました。



学校施設-034

施設名 — 北海道帯広農業高等学校柔剣道場

所在地 — 帯広市稲田町西1線9

構造・規模 — 木造 平屋建 310㎡

完成年月日 — 平成17年3月25日

建築実施設計 — (株)田辺構造設計

【設計コンセプト】

建物は標準設計で、生徒の安全性確保から、柱型を室内に出さずに、場外スペースを十分に確保しました。



学校施設-035

施設名 — 北海道池田高等学校柔剣道場

所在地 — 中川郡池田町字清見ヶ丘13番地

構造・規模 — 木造 平屋建 310㎡

完成年月日 — 平成18年3月23日

建築実施設計 — (株)谷津設計

【設計コンセプト】

建物は標準設計です。
生徒の安全への配慮として、グランド側のガラスを強化ガラスにしたり、渡り廊下をできるだけ短くし、死角ができないようにしました。



学校施設-036

施設名 — 北海道登別明日中等教育学校
屋内体育館・柔剣道場

所在地 — 登別市片倉町5丁目18-2

構造・規模 — 木造 1階建 1,730㎡

完成年月日 — 平成18年3月24日

建築実施設計 — (株)北海道岡田新一設計事務所

設備実施設計 — (株)マクロ設備企画



【設計コンセプト】

○道産材の活用

構造材や造作材に使用しているカラマツ集成材はすべて道産材を使用し、地域産業との結びつきを優先しています。

○外装材等について

また、柔剣道場の外装材やデッキ材については、間伐材と廃プラスチックから製造され、耐候性があり、自由に着色できるメリットがある熱可塑性木質複合材（カムイウッド）を使用しています。

